

令和6年度
第41回

道徳と特別活動 の教育研究賞

審査評◎特別活動の部

文部科学大臣賞 最優秀賞

熊本市立大江小学校

(代表 松永裕子)

〔団体〕
心豊かに未来を切り拓く大江つ子の育成
～学習過程「かんばい」の授業づくりを通して～

本研究が、最も高く評価されたのは、学校として平成十五年度に「心の教育」の充実に関する研究をスタートした後、平成二十年度から特別活動と道徳の時間（現在は道徳科）を両輪とした道徳教育の研究に、十七年間にわたって研究を積み上げてきた点にある。

道徳は単なる知識ではなく、社会的な実践や経験を通じて形成されるものであり、実際の学校生活の中で、とりわけ特別活動における道徳の実践を通して道徳的態度や判断力を鍛えようとする本研究は、極めて意義深い。

特に、特別活動での実践と道徳科での学びについて、共通の視点としての四つの心（「り

んご…自分を伸ばす」「さやえんどう…人となかよく」「いなほ…みんなのために」「おおえのき…命を感じる」をアイコン化し、両者のワークシートをつないで、振り返りをするようにしている点に注目したい。

また、考えたいことを明確にもてるような導入、自分事として受け止めて話し合えるようにする展開、学んだことを道徳の実践として生かせるようにするまとめなど、学習過程の各段階での工夫点を明らかにした取組にも注目したい。

さらには、独自の質問紙を作成し、年間四回の実施を通して、「子供の心の現状や伸び」を見取ろうと継続して取り組んできたことにも敬意を表したい。

これまで、道徳と特別活動の関連的指導の在り方については、長い間に渡って研究対象になってきたが、明確な方向性が見いだせていない。そのような中、道徳科で学んだことを意識しつつ、特別活動での道徳の実践の充実を図ったり、特別活動での道徳の実践の経験を関連付けて考えることで、道徳科で学ぶ内面的資質にリアリティをもたせようとしたりする本研究は、今後への期待も大きい。

(國學院大學教授 杉田 洋)